

第14回社会学国際会議

国際社会学会 (ISA : International Sociological Association) の主催する第14回社会学国際会議が1998年7月26日～8月1日、カナダのモントリオールで開催された。学会創立50周年の記念大会となった第14回会議は、“Social Knowledge : Heritage, Challenges, Perspectives” を全体テーマに、6つのシンポジウムと50のRC (Research Committee) によるセッション、ワーキング・グループによるセッションなどが催された。

シンポジウムは、“Changing identities and Social order”, “Work and technology”, “The quality of modern life : assets and liabilities” などがテーマとして選ばれ、そのなかで計93の研究発表が行われている。また個別の研究領域に基づいて組織されたRCセッションでは、世界各国の参加者により3,000にも及ぶ研究の成果が報告されている。

会議には日本からの参加者も多く、本研究所からは小島宏、白波瀬佐和子、赤地麻由子の3人が参加してそれぞれ研究報告を行っている。なかでも小島は、高齢化および人口の2つのセッションに参加しており、高齢化のセッションでは“Determinants of middle aged couples' co-residence with their older mother in Japan” と題する報告を、人口のセッションでは“The effects of sibling configuration on education and labor supply in Japan” という報告を行っている。また白波瀬は、階層研究のセッションにおいて“Women and Class Structure : a comparative analysis of Japan and Great Britain” と題する報告を行っており、赤地も同じく階層研究のセッションにおいて、“Intergenerational change in the process of married women's status attainment” と題する報告を行った。
(赤地麻由子記)

国際協力事業団 (JICA) 「ヨルダン家族計画 WID プロジェクト」 巡回指導調査団への参加

国際協力事業団 (JICA) は、1998年9月6日 (日) ～9月18日 (金) にヨルダンで実施中の「ヨルダン家族計画 WID プロジェクト」(1997. 7 - 2000. 6) について、同プロジェクト国内委員会 (委員長 : 阿藤 誠 本研究所副所長) のメンバーを中心とした巡回指導調査団を派遣した。調査団の構成は、阿藤 誠 (団長)、箕浦茂樹 (国立国際医療センター産科医長)、柘植あづみ (北海道医療大学基礎教育部助教授)、石井明子 (JICA 医療協力部医療協力第2課) の4名である。本調査団は、ヨルダンのプロジェクト本部 (アンマン)、プロジェクト・サイト (南ゴール郡) を現地視察する一方、日本側長期専門家ならびにヨルダン側のカウンターパート (国家人口審議会) に対して専門的助言を行った。また両者とプロジェクトの進捗状況ならびに問題点を話し合うとともに、今後のプロジェクトの進め方について協議を重ね、合意事項について日本・ヨルダン間でミニッツを作成した。

(阿藤 誠記)